

日医ニュース

No. 1349
2017. 11. 20

発行所 **日本医師会**
Japan Medical Association
〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代) / FAX 03-3946-6295
E-mail wwwinfo@po.med.or.jp
http://www.med.or.jp/
毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)

都道府県医師会
小児在宅ケア担当理事
連絡協議会 3面
受賞者の功績紹介
..... 4~5面
勤務医のページ
..... 8面



日本医師会設立70周年記念式典並びに医学大会が11月1日、日国会館大講堂で盛大に開催され、日本医師会最高優功賞、優功賞、医学賞、医学研究奨励賞の授与と、併せて長寿会員慶祝者の紹介、医学賞受賞者による記念講演が行われた(関連記事4~5面参照)。

日本医師会設立70周年記念式典並びに医学大会

長きにわたり、医学・医療の発展に 貢献してきた功労者を顕彰

医政局長代読)は、本医学大会の意義を称えた上で、「日医が長きにわたり、国民のために医学・医療の発展と質の向上に努められ、わが国の保健医療を支えて下さったことに改めて感謝する」とした。更に、横倉会長の世界医師会長就任に対し心からの祝意を示すとともに、「災害や公害、感染症対策を始めとして、わが国の医療の発展に大きく貢献してきた日医の見識や経験、そして先見性が、日本国内に限らず世界各国で生かされることを大変うれしく思う。横倉会長のリーダーシップにより、世界の保健医療水準が大きく向上していくものと信じている」と述べた。

横倉会長は、10月31日、厚生労働省で加藤勝信厚労大臣と会談を行い、適正な医療費の確保に向けて両者が協力して対応していくことを確認した。

冒頭、あいさつに立った横倉義武会長は、去る10月13日に開催された世界医師会シカゴ総会において、世界医師会会長に就任したことを報告し、「国民の健康寿命を世界トップレベルにまで押し上げてきたわが国の優れた医療システムが、世界が経験したことのない高齢社会を安心へと導くモデルとなり、これを世界に発信すること、世界中の人々の幸福の実現に貢献できるような最大限の力を尽くしていく」との決意を示した。

また、日医が、本年6月、一般社団法人日本記念日協会に対して、設立記念日である11月1日を「いい医療の日」として「いい医療の日」として記念日登録を行い、認定を受けたことや、制定を記念してオリジナルの記念品を授与されたこと、

念切手を発行したことを披露、「本日が最初の『いい医療の日』であり、この登録をきっかけに『いい医療の日』が国民に広く認知され、公に認められるよう今後とも必要な活動を行っていく」と述べ、受賞者の多大なる功績に敬意を表した。

続いて、来賓を代表してあいさつした加藤勝信厚生労働大臣(武田俊彦を檢討され、積極的に提

横倉会長

加藤厚労大臣と 適正な医療費の確保に向けた協力を確認

今回の会談では、まず、横倉会長が、安倍晋三内閣総理大臣が11月1日に発足する第4次安倍内閣において現閣僚を全員留任させる意向を示したこととに触れ、再任への祝意を示すとともに、引き続きの協力を求めた。

また、自身が10月の世界医師会シカゴ総会で世界医師会会長に就任したこと、国民医療費の実績値

とを報告し、これまでの支援に対する謝辞を述べた。その上で、平成30年度の予算編成に向けては、資料を基に日医の考えを説明、「厳しい財政状況から、医療費が青天井で増加することを心配する声もあるが、日本健康会議での取り組みなど、我々医療側の努力により、国民医療費の実績値が、医薬品費には制度発



は、過去の推計値を大きく下回っている」とした。横倉会長は、また、高齢社会にあつて医療・福祉分野は需要の増加が見込まれること、2000年から2011年にかけての医療・福祉分野の国内生産額の伸びが最も高いこと、等を示し、「医療に財源を投入すれば、特に医療従事者の比率が高い地方では経済の活性化により、経済成長を促し、地方創生への多大な貢献にもつながる」と指摘、診療報酬の仕組みについても触れ、昨今の新聞報道では医師の報酬改定をマイナスイメージとして報じているが、技術料には医師、看護師等、医療従事者の人件費だけでなく、医療経営の原資をつかさどる設備関係費・ランニングコストや、医療機器・材料費等が、医薬品費には制度発

本医師会医学賞受賞者による「骨免疫学による自己免疫疾患および骨関節疾患の研究」(高柳広東京大学大学院医学系研究科教授)、「未病と予防の遺伝環境医学に関する研究」(小泉昭夫京都大学大学院医学研究科教授)、「糖尿病病態の分子生物学的解析と新規糖尿病治療法開発への応用」(荒米寿会員869名の慶祝者には、更なる長寿を祈念して、後日、銀盃が贈呈された。

足時に十分な技術評価ができなかった不足分に相対する潜在技術料が、それぞれ含まれていることを説明し、理解を求めた。更に、安倍総理が経済財政諮問会議で春季労使交渉において3%の賃上げを要請したことを受けて、「民間病院はベースアップの実施率、賃金の改定額、同改定率のいずれにおいても改善が遅れており、医療関連職種だけが取り残されるわけにはいかない」と訴えた。

一方、改定を行う財源については、薬価引き下げ財源などを活用することを求め、11月上旬に公表される医療経済実態調査の結果を踏まえた適切な判断を求めた。

これらの要望に対して、加藤厚労大臣は一定の理解を示した上で、「今後、中医協で公表される予定の医療経済実態調査などを参考としながら、必要な方々に必要なサイブスが届けられるようしっかりと議論していきたい」と述べた。

その他、会談では、当日の全国紙の朝刊で厚労省と財務省が次回の診療報酬改定をマイナスイメージとの報道がなされたことも話題となったが、加藤厚労大臣は報道内容を明確に否定。今後、適正な医療費の確保のため、日医と厚労省が協力して対応していくことを確認した。

